

水をキレイにする浄化槽・常に清潔に保つ為には、正しい保守点検を。

水質検査

1 色



汚水は好気性バクテリアで浄化されているため放流水の色は多少かっ色です。

2 水温



(15~25℃)
槽内の水温が適温かどうかを測ります。

3 PH (水素イオン濃度)
pH計



薬品混入・好気性バクテリアの硝化の進行を判断します。

4 DO (溶存酸素)
DO計



好気性バクテリアが活動するのに必要な酸素が十分であるか調べます。

5 透視度



水の清濁度を示すもので、放流水の透視度を調べます。

6 残留塩素



消毒効果を確認する検査で0.1mg/ℓ以上であれば正常です。



水質検査器
FD-1型

- PH計 KP-1F
- 塩素イオン計 CL-1F
- DO計 DO-1F

保守点検

7 インポートマス及び放流先の状況



配管中に異物があるか、勾配がとれているかをチェックします。

8 外観の確認



ハエの発生、発泡、水位の異常等

9 汚泥・スカムの測定



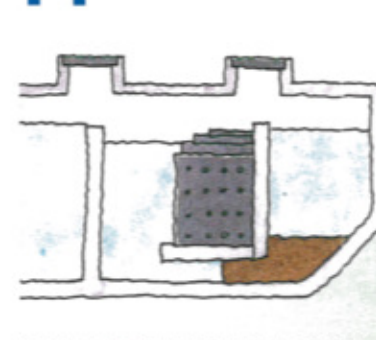
底部の汚泥溜りやスカムの溜りなどを測定し、清掃の目安にします。

10 生物膜の剥離・返送



接触材の肥大した生物膜を剥離させ、嫌気速床槽(第1室)に移送させます。

11 沈澱槽



汚水が上澄液と汚泥に分離しているかを点検します。

12 散気管



目詰まり・異物のからみつき等がないかを調べます。

13 消毒剤の投入



浄化槽の放流水を消毒するため定期点検時に薬剤筒に補充します。

フローワー

14 電磁式



- オイルレスで低騒音
- 小型で軽量、工事が簡単

15 点検報告



- 保守点検記録書は3年間保存して下さい。

清掃作業

16 汚泥引抜



環境省令で定める技術上の基準を遵守して行います。
(保守点検の結果から判断し、必要な量の汚泥・スカム等を引き抜きます。)

17 洗浄



18 水張り



清掃後に注水し、槽内を満水にします。

19 清掃記録票



- 保守点検記録書は3年間保存して下さい。